

ふしぎなくれよんやさん

天城町立天城小学校 一年 吉岡 瑛美
よしおか えいみ

あるなつのひ、ぶんぼうぐやさんからでてくると、いつもとはちがうみちがありました。わたしは、そこにすいこまれるようにはいっていききました。

すると、そこにはおおきなくなるまがとまっていた。かみがつてあつて、「とくのしまのいろをさがしています。」と、かいてあります。まるで、えかきさんのぱれつとみたいなくなるま。かぞえきれないほどのいろがかさなっています。わたしは、えをかくのがすきなので、くるまをじつとながめていました。

そのとき、くるまからおんなのひとがでてきて、「おじょうちゃん、わたしはたびするくれよんやさんです。あたらしいいろをつくりたいのですが、とくのしまのすてきないろをしっている。」

とはなしかけてきました。わたしは、「んん、とくのしまのいろってなんだろう。くれよんやさんは、いままでどんないろをつくってきたの。」

「たとえば、ほつきよくのおおろいろとか、あるぶすの

ゆきやまのしろいろとか。」

「ああ、それなら、よなまのうみのえめらるどぶるう、なんてどうかなあ。」

「いいねえ。そんなかんじで、わたしにとくのしまのいろをおしえてくれない。」

「いいですよ、じゃあ、よなまびいちをみにいなくちゃ。あしたはかぞくでたきにくよていだから、うみをみたあと、いっしょにもりにいきませんか。なにかみつかるかもしれない。」

つぎのひ、あさごはんをいっぱいたべて、どあをあげると、くれよんやさんはもうきていました。おとうさんとおかあさんもいっしょに、みんなでくれよんやさんのからぶるなくなるまのつてしゅっぱつです。

まず、よなまびいち。うみは、あおやみずいろ、きみどり、しろなどのいろがまざったえめらるどぶるうです。

「とってもきれいなうみね。」

くれよんやさんは、うみのしゃしんをとったり、めもをかいたりしました。

うみをはなれて、すこしくるまにのると、たきのもりのいりぐちにつきました。

「ぴいよろよろよろ。」

「あかしようびんがないているね。あかくてきれいなとり

ですよ。みれるといいね。」

とおかあさんがいいました。

たきまであるくと、ぽっちゃん、となにかがとびこむおとがきこえました。

「あれ、おかしいな。どこにいったかな。なんだろう。」

わたしは、かおをみずにちかづけてみました。いわのところにかえるがいました。あまみいしかわがえるです。

「なんてきれいなかえる。みどりにきんいろのてんでんか。なんとかくれよんにしたいわ。」

くれよんやさんは、めをかがやかせています。

それから、おきなわうらじろがしのはやしでみんなでおにぎりをたべていると、さっきのなきごえがきこえました。

「あかしようびん、はっけん。」

「らつきい。きれいなあかは、もえるひみたい。」

えがおのくれよんやさんに、

「よるは、くろうさぎをみにいきませんか。」

と、おとうさんはいいました。

よるになって、もりをゆっくりにくと、まるいかげがうごきました。

「もしかして、くろうさぎかも。」

みると、くろうさぎがおしりをふりふりしています。「あ

はは、ばれちゃった。」といってるようにみえて、みんなでくすくすわらいました。

おうちにつくと、くれよんやさんは、

「とくのしまのすてきないろがみつかりました。ありがとうございます。これからさっそくくれよんをつくります。」

といって、かえっていきました。

なつがおわり、あきになりました。あるひ、おうちにちいさなはこがとどきました。あけると、てがみとくれよんがはいっています。てがみには、こうかいていました。

「とくのしまのいろのくれよんができました。あのひのおもいでがつまっています。ありがとう。」

・よなまびいちのえめらるどぶるう

・あまみいしかわがえるのきんみどり

・ひのとりあかしようびんのあか

・つきあかりのくろうさぎぶらつく」

わたしは、さっそくがようしをだして、おえかきのじゅんびをしました。